

プロ

徳山 吉次 興茲

私の写真が第33回全国保険医写真展に特選2位に入った。私の写真が全国版の写真コンクールに特選に入るなんて望外の喜びである。嬉しくなって友人に漏らした。

すると彼は「娘が東京にいるから写真展に行かせる」と言ってくれた。

彼女が展示場に入ったとき、偶然プロの審査委員が講評している場面に出くわした。彼女はすぐに動画を撮った。

しかし、私の写真の講評を聞いた彼女はちょっと戸惑って『これを吉次さんに見せていいかどうかお父さん判断して』とコメント付きで講評動画を送ってくれた。もちろん友人はすぐに見せてくれた。

『綺麗な写真で技術もしっかりしている。しかし今はカメラが良いから誰にでも撮れる』

簡単に言うと結論はこうなる。

ちょっと複雑な気持ちになった。単純には喜べないぞ。

『昔のカメラはフィルムで感度が低い、今はデジタルで感度を上げて暗いところでも簡単に写る。(フィルムの感度は100から400だが)多分この写真は数千とか1~2万とかの感度で、シャッターは数秒だと思う。桜の枝先が動いていない。昔は何時間もかけて写したもんです。そうすると星は流れて線状になり、枝は動いてふわっとした感じに写る。こんな風にきりっとした写真は撮れない。今までこういった写真はあまり応募されなかった。綺麗なだけで、上位の写真のような人間関係の深さ、人間愛がない』

確かに桜に人間愛はない。

募集要項には書いてはないが、調べてみるとプロの審査委員は新聞記者を経て写真家となった社

会派である。保団連だから審査委員の気持ちでは人間や動物などとの愛の触れ合いがメインテーマなのかもしれない。場違いなところに応募したのか。

『天の川と満天の星空の下に満開の桜。宇宙と空と地上が一体化して、春風に巻き上げられた桜の花びらが天に舞いあがって星屑になっているような印象を受けた。そういう意味では非常にいい作品です。ただ挑戦していただければ誰にでも撮れます』

さすがに写真の内容は作者以上に深く読み込んでプロの洞察力・感性のすごさに感銘を受けた。

だが、何回も簡単に撮れるといわれてしまった。別のがっかりはしない、見当違いの講評だから。意外に思ったのは写真のプロといっても自分の専門分野だけのことで、ほかの分野の写真は素人よりも知らないのだ。

『iso感度を数千とか1~2万とかに上げている』との講評だが、実際はiso1600、これを万と上げたら写真は全面に点状のノイズが一杯で、見るに堪えない。

『感度が高いから動きを数秒のシャッターで簡単に止めることができる』実際は25~30秒間。数秒では何も写らない。全く間違った技術的コメントである。

一度でも星景写真を撮ったことがあれば知っていることだが、何時間かけてその場所に行っても風が吹いたり雲があったりと天候が悪くては撮れないし、露出間違いや真っ暗でピントが合わせられなくてピンボケになり、そばを人が歩くと振動でブレしまう、等は常識である。何十枚も没になる。機械は良くなっても、それを使いこなすのは

人間だから。新しい機械にもそれなりの難しさがある。何事も傍で思うように簡単にはいかない。

ここではとした。自分はどうか、形成外科の専門医ではあるが、最新の専門的な技術は身に着けていないし、ましてや他科の分野の知識たるや素人以下ではないだろうか。他科のことはその疾患で悩んでいる患者さんの方が知識は深いだろう。他山の石である。

『患者さんは素人である』、なんて気を抜くと、とんでもないしっぺ返しを食うことになる。専門分野でも分からないことは分からないと誤魔化さないで言える時、人間的には成長したかな、と思う。

今回の件で嬉しかったおまけが一つ。

彼が子供に『友人の写真展を見に行ってくれないか』とラインしたら、返信が『特選や、スゴイ、明日行ってくる。お父さんのお役に立てるなら、喜んで』

なんともうらやましい彼の親子関係ではないか。



写真 「醍醐桜」

## あなたの地元はどこですか？

柳井 織田 哲至

コロナ禍で人の繋がりが希薄になり、さらに70歳を過ぎると「あなたの地元はどこですか？」と聞かれることはありません。もし、聞かれたらどのように考えて答えるでしょうか。地元の考えは、それぞれ、その時に応じて異なるかもしれません。大学以外、小学校、中学校、高校まで同じ所で生活し、働く所も同じである人は迷いが無いでしょう。また、お寺さんのように何代にもわたって同じ所で生活をされている方は、直ぐに答えられるでしょう。長い期間、同じ土地に住んでいるうちに、思い出や友人も増え故郷であるという感覚も自然に抱けます。私のような転勤族は、答えに困ります。

政治家は、選挙の時、住んでいないのに地元に戻ると言います。例えば、亡くなられた安倍元首相も出生地、学校も生活の場も東京出身でありながら、先祖が長州藩で、本籍地が長門市のため山口が地元になります。先祖＝地元あるいは本籍地＝地元と考えても違和感は湧きません。明治政府が戸籍制度を導入し、すべての国民に本籍地を定めることを義務付けました。長州藩の戸籍法を参考にしています。住所と本籍地があるのは、世界中で日本だけです。初めは家単位で、昭和23年に夫婦単位になり、人々と土地の結びつきが長く保たれるようになりました。

皆さん、自分の先祖を調べたことがあるでしょうか？ 有名人であれば、NHKの「ファミリーヒストリー」で調べてもらえます。我々一般人は、戸籍を調べると分かるはずですが、戸籍の保存期限は150年と言われ、明治初期の戸籍は一日ごとに破棄されているそうです。新川帆立さんの小説『先祖探偵』にも書かれていますが、現在、取得できる戸籍の一番古いのは、1886年（明治19年）で、7～8代前まで分かります。

お寺（菩提寺）の過去帳があれば、1600年より前の記録は少ないですが、江戸時代までは遡れます。一代遡ると2人の両親、二代遡ると祖父母4人、十代遡ると1,024人、二十代遡ると先祖の数が100万人を超えます。同じルーツ同士の結婚、出産が昔は多いので、もっと少ないとは思いますが、1500年頃の日本の人口が700万人とすると7人に1人が名家の先祖を持っていることになります。経済力、武力があるほど子孫を残しやすいです。実際、自分のルーツをたどりた方は、古い戸籍を郵送で順次請求でき、身分証明書（免許書、パスポート）のコピー、返信用封筒、定額小為替（戸籍謄本なら450円）等が必要になります。役所に聞けば、より詳しく分かります。親族に会って聞くのもいいのですが、コロナ禍で葬儀も家族葬が当たり前になり、遠い親族に会うこともありません。どれくらい前の先祖を知りたいか人それぞれですが、何百年前の先祖より3～5代前くらい分かれば十分な感じがします。

私の場合、戸籍調査をしたことはありません。祖父、祖母共に愛媛県今治市の大島出身で、先祖が村上水軍の一族と父から聞いていました。織田信長と同じ家紋なのに織田を「オリタ」と呼ぶのか不思議に思っていました。2022年5月25日にNHKの「離島で発見！ラストファミリー 信長を破った末裔の島に住むオリタ一族の数奇な運命」で、「オリタ」の由来が放送されました。織田信長を破った村上水軍の村上家の一つは、秀吉の海賊禁止令で滅ぼされる可能性があるため村上から福羅へ改名し、関ヶ原の戦いに敗れた西軍の織田（オダ）はオリタと呼び方を変えました。福羅とオリタは、佐島から鶴島（どちらも現在の今治市、☒）へ逃げてきた者同士、一緒に仲良く入植し、お互いの家族が結婚しあって島に居住しま

した。鵜島の宇佐八幡大神宮の石柱に織田富雄の名前が残っています。周りの島々に結婚後移住し、大島にも住むようになったと思われます。村上水軍は真言宗の信徒で、私の家も真言宗で御室派です。大島の真言宗のお寺は 4 つすべて御室派で、伯方島（大島の北）のお寺を含め島 5 つすべて御室派です。もし、議員に立候補したら地元は今治市の大島になるのでしょうか。私は一度も行ったことがありませんが、ここ出身の親族で大阪と博多に住んでいる織田（オリタ）家の人々との付き合いは今でも続いています。

全国に織田と書いて「オリタ」と呼ぶクリニックが、宮崎、山口 2、兵庫 2、大阪、東京と 7 つ存在し、考え方が似ているのか、そのうち 6 つは水曜日午後が休診でした。今治市周辺の島々が先祖かもしれません。大叔父が医師であったと父から聞いています。

暁部隊所属で広島に住んでいた祖父が、柳井市に住むようになったのは、本土決戦のために準備された船舶工兵第 31 連隊の部隊長（陸軍中佐）として柳井で終戦を迎え、今治市の大島へ戻れなくなった為と思われます。祖父の時から本籍地が柳井になりました。なお、津和野生まれで画家の安野光雅さんが、昭和 20 年 4 月応召され柳井の暁部隊にいたことが、「少年時代」（本人著）に書かれていました。柳井医療センターにこの部隊の慰霊碑：雄心の碑（おごころのひ）があり、慰霊祭が以前は毎年 4 月に行われ、岸 信夫議員夫妻が出席されていたのを二度お見掛け致しました。関連する人がいなくなったため現在行われていません。関ヶ原の戦いと第二次世界大戦が地元を変えました。

今では、やはり一番長く住んでいる柳井市を地元と答えます。出生地は変わりませんが、似た表現で出身地があります。この定義も難しく、大人の庇護を受けて育った未成年時代の土地、生まれてから 15 歳まで最も長く過ごした場所、あるいは高校卒業時の居住地とかさまざまです。転居を繰り返した場合、最も印象深かった土地とか思われのある土地を出身地と呼ぶ人もいます。地元あるいは故郷に近い考えになります。



図（森本 繁著「村上水軍のすべて」より一部改変）

私の出生地は呉市天応町で、幼稚園まで 6 年間過ごしました。両親は既に亡くなっていますが、父がカメラで撮り、自宅で現像した母と一緒の写真があります（写真）。ここは母の実家で、戦前はセーラー万年筆に工場地を売るほどの大地主でしたが、戦後は農地改革に伴い、土地をすべて失いました。父の転勤の為、舞鶴市と西郷町と二つの小学校に行き、中学と高校時代は門司で、出身地は門司になります。その後、柳井市以外で一番長く住んでいたのは、宇部市の 7 年間です。30 代であれば、地元は宇部市と答えていたかもしれません。ただ、呉市天応町は、いつ行っても愛着を感じ、懐かしさがあり、故郷と言う言葉が自然に湧き上がります。室生犀星の「ふるさとは 遠きにありて 思ふもの・・・」を考えると、ふるさとは、実際に帰る所ではなく、異郷にて想い出す所だと思います。コロナが収束し離島も含め気軽に旅をしたいものです。



写真 私と母

俳句ギャラリー

徳医句会（徳山医師会）

パイヤの鉢部屋に入れ今朝の冬  
紅淡き母の忌明けの返り花

藤村友雪

運動会騎馬合戦に俄か雨  
槇の葉の露に朝日の差しはじむ

村田周陽

## 其恕乎

山口大学 しまふくろう

子貢問曰 有一言而可以終身行之者乎  
 子曰 其恕乎 己所不欲 勿施於人也  
 (子貢問うて曰く、一言にして以て終身これを行  
 うべき者ありや。  
 子の曰く、其れ恕か。己れの欲せざる所、人に  
 施すこと勿かれ。)

～論語 卷第八 二四～

2022 年 2 月 24 日 米国バイデン大統領が繰  
 り返し予告していた通りに～それは不気味なほど  
 正確だった～、ロシアのプーチン大統領はウクラ  
 イナに侵攻（侵略）した。「ああ。戦争ってこの  
 ように始まるのだ」、とニュースを見ながら不  
 思議な感覚に襲われた。それと同時に、「敗者」に  
 対する対応は極めて重要だということを、今回の  
 ウクライナ戦争で再び思い知らされた。

ぼくたちの視点では、彼の判断は正気の沙汰で  
 はない。しかし、『Newsweek』誌の記事によると、  
 彼のこの 20 年の行動には一貫性があり、自らの  
 考え方は明確に表明し続けており、本人の世界観  
 の枠内では至って合理的な行動を取っているらし  
 い。極めて正気なのだ。



(イラスト：司馬さやか)

彼はこう考えているらしい……。西側諸国、  
 とりわけ米国は宿敵であり、米国はロシアの版図  
 を削ろうとしている。ロシアには近隣諸国に覇権  
 を打ち立てる“権利”があるが、ウクライナは次  
 第にロシアにとっての緩衝地帯および属国という  
 “当然の地位”から脱しようと画策している。こ  
 のまま手をこまねいていれば、米国と NATO は  
 自分とロシア国家を破滅に追い込むだろう……。  
 彼にとって、ウクライナ侵攻は極めて理にかな  
 った行動なのだ。「ほかに選択肢はなかった」、と彼  
 は言っている。

この辺りが、ぼくにはよくわからない。国を家  
 に例えて考えてみよう。自分の家は昔から地域を  
 取り仕切る権利があり、隣の家は自分に隷属する  
 家で、勝手に旅行したり、だれかと仲良くなっ  
 たりすることは許されない。こんな勝手なことを  
 するのは自分の家への侮辱で、乗り込んで精魂を叩  
 き直すしかない、というのと同じである。これは  
 正気ではない。狂気である。ウクライナとロシア  
 は「兄弟国」と言われてきた。実際、親の片方は  
 ウクライナ系で他方はロシア系というものも珍しい  
 ことではないらしい（先日亡くなったゴルバチョ  
 フ氏もそうである）。ここにもヒトの真実の一つ  
 が現れている。ヒトは身近な存在に対し、より激  
 しい憎悪を抱く。

ロシアは現在、発展途上国並みの経済力と産業  
 力を有する中規模国家で、製造業生産はドイツの  
 半分程度でしかない。しかも、寒いためウォッカ  
 をあおるせいか、男性平均寿命も 60 代である。  
 とても先進国とは呼べない。このような国家が何  
 ゆえ大国ぶるのだ、とぼくなんかは思うのだが、  
 プーチンは思わない。

何年前か、当時の安倍首相の招きでプーチン大統領が長門・湯本温泉を訪れたことがあった。その時彼に供されたらしい高価な日本酒を、ミーハー気分でもくもその山荘ホテルで味わった。安倍元首相が慎重に念入りに彼との個人的関係を築き、日露関係を改善させようと心砕いていた味がした思いだったのだが、今回の件で一瞬にしてその思いは瓦解した。岸田首相のウクライナ侵攻後の一連の発言を聞いていると、政府は日本的な甘い期待を完全に捨て去ったようだ。

「ロシア」とは、「ロシア人」とは何か？プーチン政権がみせるウクライナの民間人やロシアの将兵に対して、これっぽっちの哀悼の意もみせないこの人間軽視のメンタリティーは、一体どこからくるのか？ その謎を解くには、1000年を超えるロシアの歴史を紐解く必要がある、と『Newsweek』の special report で河東哲夫 元ロシア公使は述べている。詳しくは読んでもらうしかないのだが、要はその歩んできた「苦難な歴史」が集権主義を再生産し、自由と民主主義そして市場経済をベースとする近代文明に加わる機会を失ったから、としている。司馬遼太郎も言っている。「君子ハ為サザルアリ」、国家がなすべきでないことは、他人の領地を合併していたずらに勢力の大を誇ろうとすることだ、と。為せばその巨大な領域に見合うだけの大規模な軍隊を持たねばならず、持てば兵員を耐えず訓練し、おびただし兵器を間断なくモデル・チェンジしてゆかねばならない。やがては過剰な軍備と軍人、あるいは軍事意識のために自家中毒をおこして、自国そのものが変質してしまう、のだと。かつてのわが国が陥った罠である。ロシアも同じなのだろう。広大な領土と、それをたえず防衛せねばならぬという緊張が内部の変質を生むのだろう。

著名なロシア文学者亀山郁夫は朝日新聞への寄稿文で、戦争の発端は、独裁者プーチンの脳裏にこびりついた恐怖と復讐心、そして過てる宗教的使命感である、と断言した。そして、率直に自分の胸の内をさらせば、ロシアを憎み、アメリカを憎んだ、としている。侵攻当初は 1877 年の露土

戦争当時、ドストエフスキーの好戦性とは対照的な非戦論を唱えた作家レフ・トルストイの、「暴力によって悪に抗せず」の言葉に一縷の望みを託していたようだが、状況が悪化するにつれ、非戦論を語る余地はなくなった、としている。そして、独裁者から使い捨てにされ、良識ある市民からも見放された兵士たちを地獄から救い出すべを私たちは何一つ手にしていない無力感を嘆き、できることはただ死への想像力を研ぎ澄まし、勇気と誠意を持って「真実」と怒りの言葉を発し続けることだけである、と結んでいる。

独裁者プーチンも人の親であり、おそらく良心の裁きを受けているだろう、と僕も想像するのだが、自らを歴史上の人物に置き換えて、あるいは歴史の外に身を置いて、裁きを逃れているのだろうか。他方、虚偽で固められた権力の俗悪さに辟易した良識あるロシア市民の多くは、現実逃避に安住しているのだろうか。なぜ声をあげないのか？と思うのは僕たちだけで、これを書いている時点ではプーチンは 75% 以上の国民の支持を得ている、との事である。

このように全く価値観の異なる人々とうまくコミュニケーションを取り、どのようにして一致点を見つけ、平和的に建設的な未来へ進むにはどうしたらいいのだろうか？難問である。本当に難問である。総力をあげて、解決策を研究する必要がある。



(イラスト：司馬さやか)



ロシアはおそらくこの戦いに勝つことはないだろう。そして戦後、さらに先進諸国との技術的・文化的な格差は広がるだろう。そして、さらに深刻なのは、国としての品格・敬意までもかなり失っているだろう。それでも、ただ一つだけ言えることは、このようなロシアに対してでも、許し受け入れ、国際社会の中で誇りを持って生きていけるような場所を世界は確保しなければならない、ということである。国としての無念や怨念、復讐心を決して持たしてはならない。かつてわが国もこのようにしてもらって、立ち直ったではないか。

(2022 年 9 月 30 日記す)

参考資料：

1. 「論語」 岩波文庫 第 50 刷  
1993 年 11 月 5 日
2. 「プーチンの心理」 グレン・カール  
Newsweek 2022 年 3 月 22 日号
3. 「ロシアよ、兄弟を殺すとは」 亀山郁夫  
朝日新聞 2022 年 5 月 3 日版
4. 「ロシアはなぜ“苦難のロシア”なのか」  
河東哲夫 Newsweek 2022 年 5 月 24 日号
5. 「ロシアについて 北方の原形」 司馬遼太郎  
文藝春秋 昭和 61 年 7 月 20 日
6. 「THINK AGAIN 発想を変える、思い込みを手放す」 Adam Grant  
三笠書房 2022 年 4 月 30 日 (第 1 版)



# 認知症予防 補聴器の導入

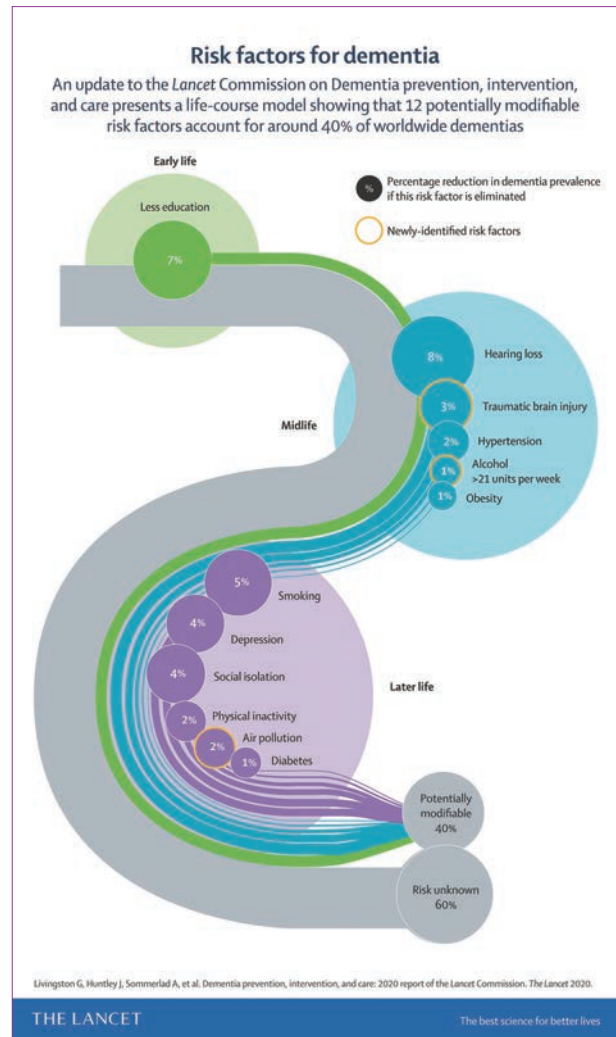
徳山 中村 和行

令和2年8月8日刊行の国際医学誌『ランセット』には、“Dementia prevention, intervention, and care: 2020 report of the Lancet Commission”と題した報告があります。認知症の予防、介入、ケアについて、2017年の報告から、さらに踏み込んだ詳細な調査結果を報告しています。中でも、「認知症の40%は予防可能な12の要因によっておこると考えられ、その中で最大の危険因子は難聴である」と結論しています。

Risk factors for dementia (図)には、認知症を発症する危険因子と危険度を経時的に示してあります。認知症の危険因子の60%はよくわかっていませんが、残りの40%をつぶさに見てゆくと予防可能なことがわかってきました。2017年の報告に新たに予防可能な危険因子が3つ加えられました。それは、過剰飲酒、頭部傷害、大気汚染です。因みに、2017年の報告では予防可能な危険因子は、教育の低さ、高血圧症、難聴、喫煙、肥満、うつ病、糖尿病、運動不足、社会的接触の少なさの9つでした。この12の危険因子を取り除けば、認知症の40%を予防できるとしています。その認知症発症の危険性を軽減する活動を生涯にわたって続けることですが、早すぎても遅すぎても良くないと述べています。一人一人に合わせた健康維持計画を立てる必要があります、社会活動、認知活動、運動に併せて血管の健康を守る活動が大切です。

その活動とは、

1. 40歳代の中高年期に収縮期血圧を130 mmHg以下に維持する。事実、高血圧の治療は認知症の予防に唯一効果のある方法と報告されています。



図

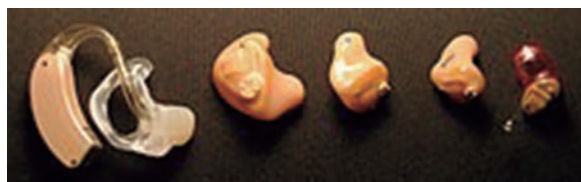
2. 難聴については、補聴器を使う。聴覚を過剰な雑音から守るために必要であるとしています。
3. 大気汚染や受動喫煙を避ける。
4. 頭部に怪我をしないようにする。
5. 飲酒量を週 21 単位までとする（英国政府によるガイドラインでは、「毎日飲んでも“安全”な酒の量」は、女性の基準として 1 日 3 単位（ワイン 1 杯半）と設定し、1 週間で計 21 単位を超えないようにする）。
6. 喫煙や受動喫煙を避ける。高齢になると認知症の危険因子となります。
7. 全ての子供の教育を義務化する。
8. 肥満を防止する。その後の糖尿病の発症予防につながります。
9. 睡眠の質を維持する。
10. 黒人やアジア人、少数民族や弱者に対する差別をなくす。彼らの健康のみならず社会的な活動を維持するために重要です。
11. 認知症は、経済的な貧困により増加する傾向があります。特に low-income and middle income countries (LMIC) では high-income countries に比べて国民の高齢化による認知症発症の危険度が上がります。私見ですが、LMIC での新型コロナウイルスのパンデミックや地域紛争による社会不安が生み出す経済状態の悪化は、将来にわたって LMIC の認知症発症リスクを拡大すると考えられます。
12. 認知症を伴う患者の多くは、他の病気で患っていることも多いため、入院治療中の認知症の進行を抑える。

13. 認知症患者の神経学的心理症状を管理する。
14. 認知症患者を抱える家族への持続的な介入は、患者のみならず家族の心配やうつ状態を改善するために極めて重要です。

中年期 (Midlife) から認知症を予防できる最大の因子は、難聴 (Hearing Loss) だということですが、最近では難聴の対策として補聴器が一般化しています。17 世紀には耳に取り付ける集音器のような原始的な補聴器がすでに製造されていました。電気的な信号増幅を行う現代的な補聴器は、19 世紀に発明された電話機の派生物です。電気式補聴器は 1898 年に最初に作られ、20 世紀を通して性能向上と小型化が進められました。20 世紀末には高度な信号処理機能を備えたデジタル補聴器が一般に購入できるようになりました。

20 世紀の前半には、補聴器産業は電気機器が小型化されていく流れの最先端にあり、真空管やトランジスタ、IC のような新技術が登場するたびにいち早く導入されましたが、補聴器に頼るのは恥ずかしいことだという社会通念があったことから、小型化は携帯性の面だけでなく使用を隠せる点で需要が高かったのです。デザイン的にも携帯用補聴器は箱型から耳かけ型、さらに挿耳型と、より目立たない方向へ進化しました。

(本稿は、Wikipedia の「補聴器の歴史」を参照しています)



伝統的なデザインで作られた 21 世紀初頭の補聴器

絵画ギャラリー

山口市 湧田 幸雄



「桜の瑠璃光寺五重の塔」(2006年)

これは2019年に作成した「作品集心象」からの一枚です。春の瑠璃光寺五重塔を訪れる人は多いが桜の木はそれほど多くない。もう少し花が欲しいと思って制作しました。

昨年夏頃から「画像作成AI」によるCG画像の話題がマスコミに取り上げられていますが、新たなクリエイティブな手法を示す反面、他人の写真や絵画を使用したり、フェイク画像につながる危険な作品等様々な問題が指摘されています。「心象」は、私自身が撮影した時代や場所(時間や空間)の異なる写真をパーツとして描写の加工や画像の合成を行った手作りの作品です。楽しんでいただければ幸いです。



「ケンジントン公園の朝」(1971年)

これは 2019 年に作成した「作品集心象」からの一枚です。ロンドン、朝霧の残る公園を散歩する。遠くから小鳥のさえずりが聞こえる。目覚める前のチューリップはまだカップを閉じたまま。その雰囲気がいつまでも感じられる様に制作しました。



「ばら」(2022年)

これは 2022 年に作成した「心象」からの一枚です。華やかで派手な印象の薔薇ですが、日本の庭に咲く落ち着いたばらの雰囲気を日本画の画風で表現してみました。

## 大愚良寛

徳山 篠原 淳一

良寛様といえば、夕暮れ過ぎて暗くなっても子供たちと鞠をついて遊んだという有名なエピソードがあります。この話はどうも事実だったようで、生まれ故郷越後の良寛記念館に手鞠の実物がいまでも大切に保存されています。

以前から「晩年の良寛様は認知症に罹患していたのでは」といった説が巷間で取りざたされました。

鞠つきのエピソードなどは一見すると認知症によくある恍惚の人を彷彿とさせます。

晩年の良寛様は徐々に物忘れがひどくなってゆき、医師の診察のあと自分の着物をすべて忘れて帰ったなどの有名なエピソードがいくつか残っています。

また短歌にも物忘れの場面が散見されますが実際の良寛様はどういった人物だったのでしょうか。

生前の良寛様は名利に淡泊な人物だったようで自分の和歌や漢詩をほとんど残していません。

そのかわりに親しい友人が彼の言行録を「良寛禅師奇話」として残しています。同郷の相馬御風がそれをもとに「大愚良寛」としてまとめたものが現在の良寛像の原型となっています。

良寛様は宝暦8年（1758年）に越後出雲崎で名主の長男として生まれました。またお互いの交流があったかは不明ですが、俳人の小林一茶は5歳年下で隣町の人です。

若いころは昼行燈というあだ名で一見ぼんやりした人物だったようですが、実際は純な優しい人柄だったようです。名主見習いとして奉公しましたが、自分は名主には向いてないことあるとき

気づきました。

これは生来の世渡り下手なためでしょう。

結局、出家という道を選んでいきます。仏教には「捨ててこそ」という言葉があります。これは「現世の名利を捨てて仏の子となる」といった内容ですが、どうもそういった心境だったのではと推察されます。

備中国玉島の円通寺の国仙和尚の下で得度し「大愚良寛」という僧名をもらっています。国仙和尚は良寛様の人柄の正直さ誠実さを最初から見抜いていたようです。大愚とは、一見愚かしい風貌だが実際は聡明で篤実であるということです。親鸞上人の「愚禿親鸞」と相通じるものです。

良寛様は13年のあいだ備前国円通寺で厳しい座禅修行をしています。以前「清貧のすすめ」という考えが流行しましたが、実はこれこそが終生良寛様を貫いた考えだったのです。乞食と紙一重の生活でまさに「捨ててこそ」を地で行ったものですが、実際は自然や酒と詩歌を楽しんだりの生活だったようです。

その後は5年間全国行脚しこの間多くの漢詩や万葉風の短歌を残しています。この傾向は晩年まで続くこととなりますが、良寛様は自分の境涯を晩年まで詩歌で表現し続けました。

全国行脚の後は郷里の越後に帰郷して五合庵という小さな寺で生活することになります。

ここでも相変わらず質素な生活だったようですが、単なる世捨て人でなく多くの友人たちと頻りに交流をしています。

また、当時の越後の殿様から長岡の寺へどうかと招かれています。丁重に辞退して「たくほど

は風がもてくる落ち葉かな」と詠んでいます。

「自分が生きてためには雨露をしのげる庵だけで十分です」という意味です。

臨濟禪の公案に「無一物中無尽蔵」というのがありますが、これこそが名利を捨てきった末の悟りの境地です。おおらかでゆったりした境地です。

実際の良寛様は一生を通じて民衆に説法などはせず淡々と生活していたようです。晩年の漢詩に「災難に逢う時期には災難に逢うが良く候。死ぬ時節には死ぬが良く候。これは災難をのがるる妙法にて候。かしこ」という有名な言葉が残っています。

「どういう困難な時期も逃げずにあるがままに生きなさい」といった内容でしょうか。

74 歳で死去する際に辞世として「形見とて何か残さん春は花山ほととぎす秋は紅葉ば」と残しました。

「わたしが死んだあとの形見に何か残したいが・・・。

残すとしたら春は花、夏は山のほととぎす、秋は紅葉など美しい自然を後に残します。私に会いたかったらこれらを訪ねなさい」という意味かと思えます。

一生を通じて清貧に生き切り、自分の心境をおおくの短歌や漢詩に託した良寛様でした。

また、子供好きの良寛様は晩年は毎日暗くなるまで子供たちと手鞠について遊んでいました。

金銭欲など色々の欲が渦巻く現代社会ですが、良寛様の無心で慈悲に満ちた考えは私たちが生きる上でひとつの座標軸のような気にもなります。

どうも同郷の小林一茶を彷彿とさせる妙に郷愁を感じさせるような人物です。

#### 参考文献

良寛詩歌集 中野東禅著

良寛 旅と人生 松本市壽著 など



# コロナ禍と3年ぶりのベトナム

下松 岩本 功

ベトナムでの活動を主とする我がNPO法人国際ボランティアIMAYAは2019年8月にベトナム中部にあるフエ省とクアンナム省での予定活動を無事に終えてハノイに移動しました。

ハノイではボランティア組織の設立から25年間という長年に亘って協力して頂いたベトナムの医師や看護師をはじめとする方々への感謝を込めた夕食会を宿泊するホテルで開催しました。

感謝会に参加した人たちの中には私の勤務地である下松市に来られた方も多く、ベトナムとの繋がりが深く、時を忘れて思い出話などに花が咲きました。2020年の再会を約束して楽しくて和やかな夕食会は終わりました。

2019年が無事に暮れようとする年末には小学生の孫は父親に連れられて上海ディズニーランドでの希望の新年を祝う年越しカウントダウンに心を躍らせて出掛けて行きました。

その頃から中国武漢で発生した感染症が世界中の人々の日常生活を一変させる新型コロナウイルス感染症パンデミックのカウントダウンも始まっていたとは知る由もありませんでした。

過去には世界の歴史を変えたと言われるペストや天然痘などの細菌やウイルスによる感染症がありました。特に中世に「黒死病」と恐れられたペストのパンデミックでは人類はなす術もなく、「死」があらゆる階級の人々の手を取り、墓場まで導くという意味の寓話的な表現として「死の舞踏」という木版画が当時のヨーロッパ中に広がりました。同じように、新型コロナ感染症もまたたく間に世界中に広がり、2000年9月に累計100万人、2022年11月には累計660万人の死者数が報道されました。12年前にスイ

ス・ルッエルンで見たこの「死の舞踏」の板絵は過去のものではなく、目の前で起きている現実ではないかと錯覚しました。

2003年にSARSがベトナムで流行し始めた時には偶然にもハノイに滞在しており、知人の医師たちとの話題は「原因はウイルスか？細菌か？とか対応をどうするの？」などでした。SARSに感染した患者さんが入院した病院を職員ともども丸ごと隔離するというロックダウンには驚きましたが、その後のゾーニングや陰圧室代わりに病室の窓を開放する事などで流行は抑え込められたようです。

これは後にWHOから「ベトナム方式」と高く評価され、この経験が今回の新型コロナウイルス感染症に対しても活かされ、ワクチン接種を優先しながらコロナ禍に取り組んで来たようで、ベトナム政府（保健省）は本年3月には新型コロナウイルス感染症流行での10万人当たりの1週間の新規感染者数、酸素療法者数、死者数などの8つの指標の分析とワクチン接種が進んで社会・経済的な発展にも成果が見られるとのことから新型コロナウイルス流行を「パンデミック」から



写真1 「死の舞踏」板絵



「エンデミック」として通常感染症に扱う事を政府広報で伝えました。

この情報により待ちに待ったベトナム入国が期待され、更にコロナウイルス感染の陰性証明も不要となり、福岡空港からのベトナム航空便も 3 月 27 日から限定的ながら再開されました。

しかし、「コロナ鎖国」と言われる日本からの渡航には色々なハードルがあり、容易ではありませんでしたが、コロナ対策を充分行いました。そして 9 月 16 日には仲間とともに 3 年ぶりに福岡空港から機上の人となりました。

ホーチミンでのトランジットでフェイ行便を待つ間の喧騒に、忘れかけていた「ベトナムパワー」が思い起こされて 3 年間の日本での長い眠りから目覚めました。

その後に訪問したフェイやドンホイの活動地では多少の不便を感じるも、3 年ぶりの日常が人々の笑顔とともに至る所にあふれていました。

渡航できない間にフェイの知人と交わしたメールにあった「ベトナム中部の経済状態は落ち込み、特に観光業を主とするフェイなどの観光地は海外からの観光客やボランティアの姿もなく、大打撃を受けている」が信じがたい光景でした。

3 年ぶりの「ベトナムパワー」に元気づけられながら、フェイではフェイ医科薬科大学生へ 2008 年に医学生 1 名から始めた奨学金を 19 名(5 名欠席)の学生さんへ激励しながら手渡しました。卒業された奨学生の 20 名の方々がそれぞれの分野で社会に貢献されておられる事は嬉しい限りです。

続いて、フェイの北 200km 以上あるクアンビン



写真 2 フェイ医科薬科大学生への奨学金

省ドンホイへ移動しての障害者支援センターではベトナム製の特殊車いす 20 台(2003 年からの累計 421 台)を下肢の喪失や機能低下している方たちへ、通学用自転車 20 台(2016 年からの累計 70 台)を小中高の生徒たちに寄贈しました。今回も我々の活動のモットーである「顔の見える支援」により現地の人たちの笑顔に出会い、3 年間待ったベトナム訪問がとても有意義なものとなりました。

3 月中旬に国際観光を再開したベトナムですが、観光客数は 10 月までに 235 万人と目標の 500 万人に届きませんでした。これからのウィズコロナやアフターコロナでの国際交流が定着して以前の訪問数レベルに戻ることを願って止みません。

新年を迎えるにあたり新型コロナウイルス感染症の収束を願うとともに、これからも我々を悩ます再興・新興感染症が続くことは否めませんので、しっかりと対応できる自分であるように生涯学習に励めねばなりません。また今回の 3 年ぶりのベトナム活動で「顔の見える支援」の大切さを再認識し、日々の診療現場に於いても「顔の見える診療」が大切な事を忘れないようにします。

#### 参考資料

1. 「死の舞踏」の解説 ブリタニカ国際大百科事典
2. 「COVID-19 Dashboard」
3. 「JETRO ビジネス短信」

ジョーンズ・ホプキンス大学

日本貿易振興機構(ジェトロ)



写真 3 ベトナム製車いす・自転車寄贈

## 愛情（相性、退場）物語

下関市 塩見 祐一

映画を観るのが唯一の趣味な僕にとって、近頃とみに洋画の邦題の付け方が気に食わない。原題をカタカナにただけなんだもの。対して昔のは趣きがあった。次ぎの二作品もその例にもれない。

### ○愛情物語

シアター1 『The Eddy Duchin Story』（邦題・愛情物語、1956年）のリバイバル上映を観たのは多感な高校3の17才の時だ。描かれた内容を思い出しながら主人公が愛した対象者遍歴を臨床心理学上の“交流分析”で辿ってみる。

P：親（母）の愛 タイロン・パワー扮するピアニストのエディ・デューチンが『〇〇』（ドストエフスキーの長編小説）美と噂されたキム・ノヴァクの愛と財力ある“推し”でもってアメリカン・ドリームをつかむ。二人は結婚し、彼女は一粒種の出産直後に亡くなってしまふ。

A：大人の愛 失意のどん底にあったデューチンは彼女の遺したピーターともママならないで、時間だけが過ぎていく。時は第二次大戦に突入し、彼も出征して戦地へと。帰国後、その間一人ぼっちで寂しかった息子がスゴク懐いた家庭教師のヴィクトリア・ショウに出会う。自然に彼女と大人の恋におちいり、デューチンは余命幾ばくもないにもかかわらず再婚する。

C：子供の愛 彼女の取り持ちで息子との仲も直り、親子でピアノの共演となる。そのラストシーンでデューチンがピアノを弾くソノ画面から急に彼が消えていく、この場面が僕は大好きだ。その時に流れたカーメン・キャヴァレロのショパン『ノクターン』も。

以上より、愛は一方的なものではなく“交流分析”で言う“相補交流”がなければ相思相愛にはならないのだ。

シアター2 『Love Story』（邦題・ある愛の歌、1971年）は主演がアリ・マッグロー&ライアン・オニールでエリック・シーガル原作だ。ヒロインが「愛とは決して後悔しないこと」という言葉を恋人に伝えて白血病で亡くなるのが作品のテーマだ。

邦画界で“美人薄命”をそのまま地（字）で行（逝）ったのは本映画と同じ“白血病”の夏目雅子さんだ。近年ではハリウッド進出の渡辺 謙さんや女子水泳の池江璃花子選手みたいに見事カムバックされるスターもいるのに残念でたまらない。

昔々の下関市で休日診療所が始まってしばらくの頃。僕は勤務する下関K病院（当番は僅か内科Dr.1人、Ns.2人体制）で二次救急の引き受け病院として待機していた。夜半に高熱患者さんの紹介あり。19才のS大男子学生で出身は東北のS市だった。たかが発熱で？と思った。だけど依頼がベテランの故 森岡先生（元林兼病院長）故、もしかして重病？と外来で白血球数を顕微鏡で調べた。何度数えても1,500しかない。案の定、急性骨髄性白血病だった。お母さんが迎えに来られて、ファミリーの希望により実家近くの日赤病院に転院となった。退院前日に「髭が伸びちゃったネ」と言ったら、「病気が治るまで剃りません」と笑った。後日、向こうの主治医から「一度の寛解もなく亡くなられた」との返事が来た。

ロマンス映画を見終わってよく思うのは、彼らのひと時の恋愛事情がソレからも続くとしたら、その恋人同士の相性が余程ピッチシに違いない、と。僕たち医師にとって患者さんとの相性があるように。さて、次ぎなるはソノ相性についてのアイロニカル自験例である。

### ○相性物語

症例 1 80 才代の女性、まだ彼女が定年前の現役で僕がソノ職場の嘱託医（今の産業医）をしていた頃からの患者さん。よって僕の実年齢や子どものこともしっかりご存知だ。先日言われたのは「先生の子供さん達はいつ下関へ帰ってらっしゃるのですか?」。答えて曰く「まだまだ修行の身やからね」。心中、医療がついにクラシックになったので、代替わりしたいのかな?と勘ぐってしまう。

症例 2 70 才代の男性、下関 K 病院・内科以来引き続いて診ている患者さん。「センセイも私と同じ年代やから何時倒れるかもしれん。その時じゃ遅いから、今のうちにどこへ変わったらいいか教えてくれ」。そうか、頼りにならん年になってしまったか。しかし、医者としてのプライドもあるから負けられないよネ。

症例 3 60 才代の女性、当診療所を開業した時分からの患者さん。始めはヤル気満々で午前中は西洋医学・午後は和漢医学としていたが、すぐにやっていけなくなり“何時でも何なりと”に変更した。それでも彼女は今に至るまで午後には漢方エキス剤診療受診される奇人な人だ。が、最近になって診察中に老いを見つけたのか「センセのお弟子さんでもおられたら、と何時も思っています」なんて。

ということで、わが身にもいよいよもって昨今よく聞く引退勧告をされる時期が来たナと感じる今日この頃であります。その Stage は次ぎの通り。

### ○退場物語

ステージ 1 45 才、下関市医師会報の編集委員氏におだてられ『僕の 2001 年医療と経済の旅』を投稿した。その論考中、医師供給曲線から“保険医定年制”が必要とされるとした。当該年齢は書かなかつたけれど、それは 65 才と考えていた。根拠は、時代が介護保険法制定・施行前夜であり、ベテラン医師の需要＝受け皿はありすぎると見たからだ。ごめんなさい、若気の至りでした。まさか、医師が介護業界の主体を外されるとは。

ステージ 2 65 才、無責任な持論の言い放しになる自縄自縛の上記年齢になる。こうなりや

人生で一番楽しかるべき青春に貴重なお金と時間を投入した受験勉強に賭けてみよう。注ぎ込んだサンクコストを取り戻そう。そして不合格にならないテクニックを伝授する反面教師的学習塾を開こう。知り合いの建築士さんにテナントの間取りまで考えてもらった。しかしだ。主たる受講者想定である中学生の重要科目・英語に僕の泣き所があった。その昔に苦手な“時計の問題”等の解き方を教えてやった長女から「父さんのリスニング力は小学生並み!」と指摘され、即、断念した。

ステージ 3 70 才、医者の不養生!開業後初めて 12 日ほど仕事を休んだ。入院なんてしたことがなかった身にはショックだった。その際に詠める歌のように。

～「この俺がこんな病気になるなんて!健康オタクで生きてきたのに」～紀貫(汚)之

マイ主治医が回診中に出される<sup>けはい</sup>気配も「無理をしない方が・・・」だったので、退院後に当院かかりつけ患者さんの他院への紹介状を書き始めた。手書きレセプト以来の筆圧過重で腱鞘炎となり、30 通書いたところで止めた。

ステージ 4 75 才、後期高齢者医療被保険者証をいただいた。その保険証につき仕事場にこのところしきりと文書や電話で“オンライン資格確認導入”案内が来る。大のメカ音痴の僕にとって「もう医療の第一線から身を引きなさい」と背中を押してくれている感じだ。他方、ワタクシメを少しでも“かかりつけ医”として見てくれる静かなる患者さんの顔が浮かび、申しわけなさで一杯になる。正にシェークスピア『ハムレット』の名言“To be, or not to be, that is the question”と同じ心境なのだ。すなわち、「診療所を続ける、or、閉じる」、それが目下の僕の大問題なのである。

メの一句です。「隠居して ひねもす映画を観たりカナ! or ?」～ 不遜(ブソン)

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

若水やきれいなまま掬びたり

初空に塔の五層の雄雄しきよ

雪兎たまゆらこそその命かな

葉を落とすヒポクラテスや冬構

みちのくの銀杏落葉の旅土産

血に曇る月蝕の月冬めける

汁椀の蕪透きとほる朝餉かな

晴天の朝や真白き足袋を干す

献立を決めず園へと暮早し

庭師等の談笑楽し冬日和

雲流る秋天のぞく大整枝

雲一つなき秋天を飛棧の行く

杉山元治

末兼浩史

佐々木映子

坂本強

## 俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

異国から半日遅れの初笑ひ

窓際が玩具の居場所小春かな

文机や姿勢崩さぬ水仙花

今村孝子

柔らかき笑顔を律す秋の霜

春風の笑顔の君の心意気

またいつか笑顔が地顔芝桜

淵上泰敬

煮崩れて湯気の細かき蕪汁

日溜まりで世間話の小春かな

コロコロとワケチン変わる秋の空

成重隆博

## 福岡国際マラソン選手権大会と共に24年間

萩市 池本 和人

毎年の事ながら年末の楽しみは福岡国際マラソン選手権大会医務班に参加すること。2021年12月5日の第75回大会を最後に、長い歴史の幕を閉じた。連続し医務班としての参加は24回で楽しみが終わった。

師走の福岡を駆け抜けてきた福岡国際マラソン選手権大会がラストランを迎えた。コロナ禍のなかでの大会の開催はひと味ちがい緊張感があった。本大会は1947年に「金栗賞朝日マラソン」として熊本で産声を上げ、1960年代以後は福岡会場。世界のマラソン名選手を育て、日本選手の強化に寄与してきた。振り返れば2度の世界最高記録を達成。8回の日本最高記録が樹立されるなど語り継がれる数多くの名勝負の歴史でもある。当時の世界記録保持者のハイレ・ゲブレセラシエの走りを第一医務車で見ながら、マラソンの一番楽しみは35キロあたりから誰が何時抜け出すかの駆け引き。第一医務車は汗が飛んできそうな場所での仕事、本当に多くの興奮を体験し数々の名勝負は今でも思い出し懐かしい私の財産であり、数え切れない貴重な体験でした。

萩市医師会から毎年、ボランティア参加者。私の経験が萩城下町マラソンへ発展しました。福岡国際マラソン選手権大会で活躍した名選手が萩でゲスト参加しました。

最近では綿貫篤志現萩市医師会長夫妻（6回）。杉山裕子医師会職員は、10回を超えての無償ボランティア参加。過去24年間には萩市医師会員を始め、山口県内の医療関係者には参加頂きました。この大会終了も仕方がないかと諦めておりました。全国各地で多くの市民が参加するマラソン大会に移行する傾向は時の流れである。

2022年3月19日朝日新聞記事。驚いたことに日本陸上競技会連盟は昨年12月の大会で終了した福岡国際マラソン選手権大会を新体制で開催する事に決定したと報じた。スポンサー等、主催の一部には変更のみは仕方がない。年の瀬の博多の風物詩になりましたマラソンは年中行事を消したくはないと福岡県や関係者の動きが大きな波になりました。朝日新聞記事では日本陸上競技連盟と福岡陸上競技協会。大会実行委員会が主催する。令和4年12月4日の開催で名称は福岡国際マラソン選手権大会2022年（仮称）、昨年までと同じ平和台陸上競技場発着のコースで実行する。海外からの招待選手を含む男子エリート選手約100人の参加者を予定し世界選手権などの代表選考会を兼ねる見込み。従来大会は事情があり、一旦は幕を閉じることになったが、今後はスポンサーを探し助成金募集等、福岡県の底力を結晶する。之は実に素晴らしいこと。そうと決まれば従来の動きに変わりなく、私は参加出来るかと不安がつきまとう。互いに連絡を取りあって今年も萩市医師会から4人が参加出来る事を期待する毎日。馬齢を重ねての事である。引退も頭にはよぎりましたが、決まれば参加しようと決めて健康管理と体力保持。時間を見付けては、秋吉台のウォーキングと萩市菊が浜の運動は繰り返し準備万端、動かない事と心を決めて1ヶ月後が楽しみである。

2022年10月30日 記（萩市陸上競技会顧問）



写真 1 最後に裏方が今後は使われない表彰台に上る



写真 2 第 75 回福岡国際マラソン大会の小冊子